

頬を刺すような風が和らぎ、日ごとに春の訪れを感じるようになりしました。本日ここに、ご来賓及び保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業証書授与式を挙行できますことは大きな喜びであり、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられ、慶びもひとしおのことと存じます。コロナ禍もあったこの3年間あるいは4年間にわたり本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力をたまわりまして厚く御礼を申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与した全日制3ー4名、定時制12名の皆さん、卒業おめでとう。上田高校で過ごす中で皆さんは、様々な活動に主体的かつ熱心に取り組み、リーダーシップを発揮してきました。全日制にあつては、主体的に行動する力、新しい価値や未来を創造する力、自分の幸福とともに他の人の幸福のために貢献する力、定時制にあつては、協調性、主体性を身につけて社会に出て活躍できる力という本校が目標としている力をそれぞれ身につけてくれたことを大変嬉しく、また、誇りに思います。

本日、最後にみなさんに伝えたいことは二つです。一つ目は夢を持つとう、ということです。すぐく普通ですが、あえて言います。若者

が夢を持たずしてどうしますか。

1月、イチロー選手のアメリカ野球殿堂入りのニュースが流れました。殿堂入りのためには、メジャーで10年以上プレーし、引退後5年たっていることが必要で、イチローはようやく今年資格を得たところです。投票によって選出されるのですが、75%以上の得票率が必要なところ、満票に1票だけ足りず、99.7パーセントの得票率で選出されました。アメリカの野球殿堂入りは、日本人として初の偉業です。

イチローが小学校の頃、毎日練習をしていると、「プロ野球選手にでもなるつもりか。」と笑われたそうです。プロになってからも体がそれほど大きくないイチローがメジャー挑戦を決めたときもやはり笑われたと言います。でも、持ち前のストイックさで努力を重ね、成績を挙げてきました。彼は、言います。「自分自身の可能性を自分でつぶさないでほしい。自分ができると思っても、それが必ずできるとは限らない。でも、自分ができないと思ってしまったらそれは絶対にできない。」イチローが体が小さいからプロ野球選手は無理だ、と自分であきらめてしまっていたら、近所の人が笑うから、と野球をやめていたら、その後の伝説は決して生まれていなかったのです。

では、なぜ彼は野球を続けることができたのか、記者の問いにイ

チロー選手は「野球が好きだから。」と答えたそうです。そして子供たちに、「野球でなくてもいい。自分が熱中できるもの、夢中になるものを見つければそれに向かってエネルギーを注げるので、そういうものを早く見つけてほしい、」とメッセージを送っています。

私たちの多くは、イチローのようなスーパーヒーローになれるわけではありません。でも、ひとりひとりの人生はイチローの人生と同じく価値のあるもので、大切なものなのです。皆さんのこれから的人生の中で、「好きなこと」や「夢」を見つけてそれをあきらめずに追い求めてほしいと思います。

もう一つは、自分の役割や使命を果たしてほしいということです。使命とは、自分が何のために生まれてきたのか、いかに社会に貢献していくのかということ。好きなことを追究したらいずれは、何らかの形で世の中に貢献してほしいと思います。イチローにとって野球が夢であるのと同時に使命であるように、人はそれぞれの使命があります。世の中はみんなの力で回っています。一人一人が世の中をちょっと良くするために貢献することです。と過ごしやすい世の中ができるでしょう。人のため社会のためにみなさんそれぞれが使命を果たしてくれることを願っています。

あなたが飛び出していく世の中にはたくさんの困難もあるでしょう。でも、かならず乗り越える道はあるはずです。上田高校

の精神でもある「いざ百難に試みん」の気概とは、十分な準備・工夫をして困難に挑むことです。その気概で己の使命に向かって果敢にチャレンジし続けてほしいと思います。

卒業生の皆さん、健康に留意し、自分の道をしっかりと歩いていただきます。皆さんの前途に幸多からんことを祈り式辞といたします。